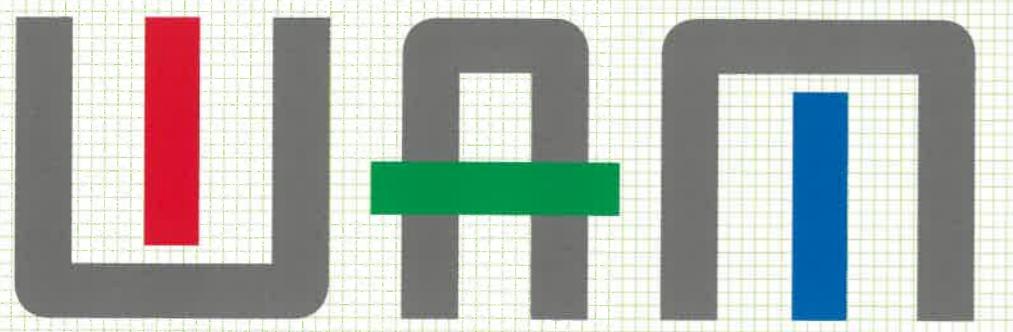
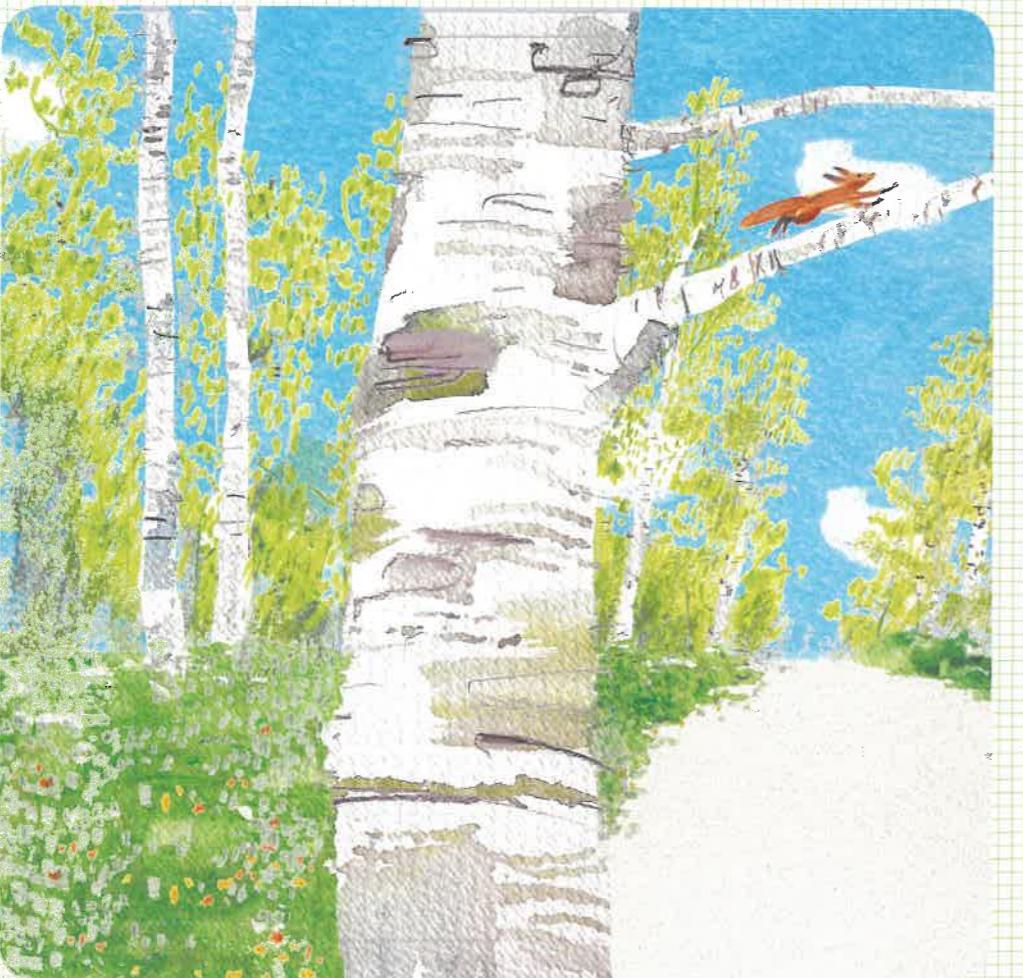


福祉と医療の民間活動を応援します



10
2023

- 特集／孤独・孤立対策推進法が成立
- 福祉・医療最前線／社会福祉法人 ひだまり 近江拠点
- いきいきチャレンジ／特定非営利活動法人 クリエイティブサポートレッツ
- WAMレポート／2022年度 福祉・医療施設の建設費について



独立行政法人福祉医療機構

WAM

2023年10月号 2001年5月11日第三種郵便物認可
2023年10月1日発行 第706号

●編集・発行／独立行政法人福祉医療機構
●編集協力・販売／株式会社法研

〒104-8104 東京都中央区銀座1-10-1

☎ 03(3438)9240
㈹ 03(3562)8426

定価 600円（本体 546円）送料 91円

受けられた皆さんに、融資期間中
火災保険としてご利用いただける特約火災保険。
運営は、損害保険各社による共同引受けです。
福祉貸付・医療貸付の
貸付事業」として
一元的な管理が行われ、
新規・継続手続きなどの諸手続きや
保険金のお支払いが
スムーズに行われるよう、
万全の体制を備えています。

独立行政法人福祉医療機構の直接貸付を

受けられた皆さんに、融資期間中

火災保険としてご利用いただける特約火災保険。

運営は、損害保険各社による共同引受けです。

福祉貸付・医療貸付の

貸付事業」として

独立行政法人福祉医療機構特約火災保険

引受保険会社

- 幹事会社 あいおいニッセイ同和損保（福祉貸付） 損保ジャパン（医療貸付）
- 副幹事会社 東京海上日動

（以下五十音順） 共栄火災 大同火災*

指定代理店 株式会社 福祉医療共済会

日新火災 三井住友海上

*は医療貸付特約火災保険の引受保険会社には含まれません。



9784867560396

ISBN978-4-86756-039-6
C2036 ¥546E

だんぜん、あんしん。



▲生活介護の浴室は、特殊浴槽とミスト浴装置を設置。利用者の身体状況や希望にあわせて入浴方法を選べる



▲事務所は、スタッフがさまざまな情報を共有するため、訪問看護を含めて1カ所に集約した



▲看護小規模多機能型居宅介護は、「通い」、「宿泊」、「訪問介護」、「訪問看護」を一体的に提供するとともに、医療ニーズや看取りにも対応



重症心身障害児者を受け入れる施設が少なく、県南部の施設に車で片道2時間かけて通わなくてはな

らず、住み慣れた地域での生活を継続することが困難な状況にありました。需要がありながら整備さ

れていないことが地域課題となつていてことから、米原市と隣接する長浜市に開設の計画を相談したこと、両市から補助金を受けることができました。さらに、湖北

保健医療圏の慢性期の完結率は22・9%と他圏域と比べて著しく低く、大半の患者は近隣の圏域や府県へ流出していたことから、看護機を併設することにより、地域の在宅療養を支える体制を整備しました。

同法人は、令和3年4月に近江拠点において、共生型サービスを行う施設を開設した。同施設は、重症心身障害児者対応の放課後等デイサービス、生活介護、短期入

所をはじめ、看護小規模多機能型居宅介護（以下、「看多機」）、訪問看護、居宅介護支援、通所介護など、障害福祉事業では放課後等デイサービス、生

活介護、短期入所、相談支援事業などを運営している。

同法人は、令和3年4月に近江拠点において、共生型サービスを行う施設を開設した。同施設は、重症心身障害児者対応の放課後等デイサービス、生活介護、短期入

所をはじめ、看護小規模多機能型居宅介護（以下、「看多機」）、訪問看護、居宅介護支援、通所介護など、障害福祉事業では放課後等デイサービス、生

活介護、短期入所、相談支援事業などを運営している。

地域の医療ケアニーズに複合施設で対応

—滋賀県米原市・社会福祉法人ひだまり 近江拠点—

地域の福祉向上と共生社会の実現を目指す

滋賀県米原市にある社会福祉法人ひだまりは、地域に根ざした高齢者福祉・障害福祉サービスを提供し、地域の福祉向上に貢献することに取り組んでいる。同法人は、平成15年にNPO法人を設立し、民家改修型の高齢者デイサービスを開始したことに始まる。事業の立ち上げ後、看護師であつた理事長の永田かおり氏が、重症心身障害児の母親から相談を受け、障害児の一時預かりを行つたことが障害福祉サービスを開始したきっかけとなつた。その後、地域の支援ニーズに対応した高齢福祉・障害福祉事業を開拓し、平成27年6月に社会福祉法人を設立。

福祉医療機構では、地域の福祉医療基盤の整備を支援するため、有利な条件での融資を行っています。今回は、その融資制度を利用された滋賀県米原市の近江拠点を取りあげます。同拠点は、重症心身障害児者対応の放課後等デイサービス、生活介護、看護小規模多機能型居宅介護などを併設し、共生ケアに取り組んでいます。実践するケアの取り組みについて取材しました。

現在は、米原市内に本郷、一色、米原、近江の4つの拠点をつくり、高齢者福祉事業では地域密着型特別養護老人ホーム、認知症高齢者グループホーム、看護小規模多機能型居宅介護、居宅介護支援、通所介護、小規模多機能型居宅介護など、障害福祉事業では放課後等デイサービス、生活性介護、短期入所、相談支援事業などを運営している。
施設の概要
社会福祉法人ひだまり 近江拠点
〒521-0082 滋賀県米原市能登瀬1322-1
TEL 0749-54-3355
FAX 0749-54-3366
URL https://hidamari-shiga.jp
開設日：令和3年4月 理事長：永田 かおり 併設施設：【近江拠点】放課後等デイサービス「青空ひだまり」（定員10人）、生活介護「大空ひだまり」（定員10人）、ショートステイ（4室） 【本郷拠点】地域密着型特別養護老人ホーム、小規模多機能型居宅介護 【一色拠点】通所介護、小規模多機能型居宅介護、認知症対応型共同生活介護、共用型デイサービス 【米原拠点】放課後等デイサービス、総合事業通所型サービス



医療的ケアの必要な子どもから成人までを支援

同施設の特色として、重症心身障害者児者対応の放課後等デイサービス「青空ひだまり」（定員10人）

建物は、平屋建てで、施設内は各事業所をパーテーションで区切る程度にし、スタッフが往来しやすく、ケアの提供やさまざまな情報共有を図りやすい環境をつくった。

現在、放課後等デイの登録者数は39人で、そのうち重症心身障害児と医療的ケア児は9人となつている。生活介護の登録者数は31人で、重症心身障害者の利用者は18人にのぼり、支援度合いが最も高い障害支援区分6の利用者が8割近くを占める。

日中の活動中は、看護師が常駐して主治医の指示に基づき、必要に応じて医療的ケアを提供。主な医療的ケアとしては、喀痰吸引、経管栄養（胃ろう、腸ろう、鼻腔）、気管切開、人工呼吸器による酸素療法、排せつ等に必要な留置カテーテル、インスリン注射などに対応している。

「支援体制としては、単独の訪問看護ステーションを含め、施設全体で15人ほどの看護師を配置し、メインの業務は決めているものの、放課後等デイや生活介護、訪問看護なども兼任しています。このように看護師がマルチに働き、横断的なケアをしていること

が複合施設の運営を支えています。（永田理事長）。

リハビリの提供では、理学療法

複合的な課題を抱える家族のサポートを実現

から日曜にかけては、他法人が緊急措置に対応することが難しいため、同法人が積極的に受け入れているという。



▲複合施設に設置した法人内保育所。障害のある子どもと一緒に遊ぶ環境もある



▲放課後等デイサービスには、自閉症等の子どもが利用する療養室を設置



▲テラスは、日中活動やイベントなどに活用している

社会福祉法人ひだまり
理事・統括本部長

安藤 修氏

して、障害の有無に関わらず、子どもから成人までの様々な年齢層の利用者に対しても、受け入れができるとをあげる。
「実際に障害のある子どもをもつ方が、自分の父親は小多機、子どもは放課後等デイを利用しているケースがあります。複合的な課題を抱える家族に対して複合施設でサポートできることが最大のメリットだと思います。また、高

管理者の育成に取り組む

社会福祉法人ひだまり

理事長 永田 かおり氏

今後の展望としては、生活介護の定員を20人に増員する予定です。さらに、地域における障がい者の住まいに関する支援が不十分であると感じているため、障がい者グループホームの新設を検討しています。

人財育成は経営における重要な要素であることから、今年度から管理者向けの経営勉強会を毎月実施し、事業経営や利用者サービス、そして職員のエンゲージメントに関する知識を深めています。

また、人材確保の視点から、当法人では外国人職員5名を雇用しており、今後も増員を目指しています。日本語を学んでもらい、介護福祉士の資格を取得してもらう計画です。そして将来的には、日本にご家族を招くことができる環境を整えています。



「例えば、特養などの入所施設は稼働率を管理することで経営は安定しますが、当施設のように通所・訪問サービスが中心の場合、流动的で各事業所の管理者がしっかりと管理しなければ、収支が安定しない面があります。さらに、当法人は小規模事業所が16カ所あり、事業所ごとに必要な資格を有する管理者を配置しなくてはならず、な

どもから成年までのどのような年齢層の利用者に対しても、受け入れていています」（永田理事長）。

複合施設の運営で難しいことや課題について、同法人理事・経営推進部長の安藤修氏は次のように説明する。

「例え、特養などの入所施設は稼働率を管理することで経営は安定しますが、当施設のように通所・訪問サービスが中心の場合、流动的で各事業所の管理者がしっかりと管理しなければ、収支が安定しない面があります。さらに、当法人は小規模事業所が16カ所あり、事業所ごとに必要な資格を有する管理者を配置しなくてはならず、な

どもから成年までのどのような年齢層の利用者に対しても、受け入れていています」（永田理事長）。

「実際に障害のある子どもをもつ方が、自分の父親は小多機、子どもは放課後等デイを利用している

かには兼務ができない部門もあるため、相当な人数が必要となります。管理者の力量はケアの質にも関わるため、管理者の育成は急務の課題です。一方で、企業や医療・

福祉施設では、ポスト不足といわれ、スタッフが自分のキャリアデザインが描けず、働くモチベーションが低下するケースがありますが、当法人はポスト自体はあるの

で、向上心や意欲があるスタッフの頑張りに応じて管理者になれる環境があることは、働くモチベーションを高めることにもつながると思います」。

共生型サービスを展開する複合施設として、地域の多様な支援や医療ニーズに対応する同施設の今後の取り組みが注目される。

士、作業療法士を配置し、利用者の状態に応じた適切な運動や安全で快適な体勢を保つポジショニングを実施。生活のなかでのリハビリを取り入れ、生活の質を高めるこことを重要視し、機能訓練とともに集団での役割をもつることを意識しながら、一人ひとりの利用者にあわせたプログラムを提供している。

入浴支援で保護者の負担を軽減

「生活介護の入浴支援では、特殊浴槽とミスト浴装置の2種類を設置し、利用者の身体状況や希望



▲▼重症心身障害児者に対応した放課後等デイサービス（写真上）と生活介護。医療ケアが必要な子どもから成人までの支援を行なう



（永田理事長）。

さらに、ショートステイと日中

利用する子どもに対しても入浴支援を提供することで、家族の負担を軽減しています。また、重症心身障害児者は肺機能が低いことが多く、気管切開をしているケースもあるため、肺への負担が少なく、お湯に浸からないミスト浴のほうが安全だと考え、導入しています」（永田理事長）。

さらに、ショートステイと日中

（永田理事長）。

「ショートステイは、親自身の健康面や子どもの将来の生活を考えても、必要なサービスですが、自分の都合で子どもを預けることに抵抗がある保護者が少なくあります。開設当初は利用が想定していましたが、開設から2年が経ち、あること、利用が多いことは別だということをあらためて実感しました。現在は利用件数が増えていますが、開設から2年が経ち、施設に対する信頼関係が構築されってきたことが大きいと思います」（永田理事長）。

「ショートステイは、親自身の健康面や子どもの将来の生活を考えても、必要なサービスですが、自分の都合で子どもを預けることに抵抗がある保護者が少なくあります。開設当初は利用が想定していましたが、開設から2年が経ち、あること、利用が多いことは別だということをあらためて実感しました。現在は利用件数が増えていますが、開設から2年が経ち、施設に対する信頼関係が構築されってきたことが大きいと思います」（永田理事長）。

（永田理事長）。

「ショートステイは、親自身の健康面や子どもの将来の生活を考えても、必要なサービスですが、自分の都合で子どもを預けることに抵抗がある保護者が少なくあります。開設当初は利用が想定していましたが、開設から2年が経ち、あること、利用が多いことは別だということをあらためて実感しました。現在は利用件数が増えていますが、開設から2年が経ち、施設に対する信頼関係が構築されてきたことが大きいと思います」（永田理事長）。

（永田理事長）。

（永田理事長）。